

2012年度研究部会活動記録

部会主任名	鈴木 健夫	現代政治経済研究所
研究課題：「越境」の歴史世界		
月/日	活 動 記 録	
	人間社会にはさまざまな「境界」がある。自然的・地域的境界、民族的境界、政治的・行政的境界、経済的境界、宗教的境界、文化的境界等々、人びとはこのあまたある「境界」のなかで、そして同時にこれら相互に織り成す「境界」を越えて、日々の生活を送っている。こうした「境界」は混じりあうことで「共生」を実現していることが多いが、同時に、「境界」をめぐるさまざまな争いが日常的・非日常的におこっている。もとより、これらの「境界」は人びとの自然との、他の民族との、他の国家との、他の経済圏との、他の宗教との、他の文化等々との「共生」を阻害してはならないし、むしろそうした他の世界との「共生」を支え、それを確かにするものでなければならない。 今日、グローバリズムの大きな波が世界を襲い、インターネットが「境界」の現実性を失わせているなかで、だからこそ、まさにこの現代の位相に身をおいて上記のようなさまざまな、歴史上幾度も再生されてきたともいえる「境界」の意義を改めて考察し、今後の人間社会の在り方にひとつの展望を与えることが要請されている。 本研究部会は、以上のような問題意識の下に、本年度、以下の研究会を開催して活発かつ有益な議論を行ない、2期4年間にわたる共同研究の成果の一部を研究叢書『「越境」世界の諸相——歴史と現在』として公表した。 研究会 5/26 川名隆史特別研究員（東京国際大学経済学部教授）「分割前期ポーランドのタター人について」 6/4 ネリ・レシチェンコ（ロシア科学アカデミー東洋学研究所上級研究員）「ロシアにおける日本史研究（徳川期・明治期）」 6/3 塩谷昌史（東北大学東北アジア研究センター助教）「ロシア更紗とアジア商人—近代の始まり」 10/20 ブレント・マイ（コンコーディア大学（ポートランド）・ヴォルガドイツ人研究センター所長）「Volga Germans in America」 アレクサンドロ・スタンツィアニ（社会科学高等研究院教授 [EHESS, Paris]、早稲田大学高等研究所訪問研究者）「Capital, trade and the rules of exchange in France and Europe, 18th-early 20th century」 11/17 アレクサンドロ・スタンツィアニ（社会科学高等研究院教授 [EHESS, Paris]、早稲田大学高等研究所訪問研究者）「Abolitions, freedom and economic growth in comparative and global perspectives, 18th-19th century」 11/21 ミハル・バラーチ（スロヴァキア・ブラチスラヴァ・コメンスキー大学ローマカトリック学部・布教神学講座長、ジリナ司教区司教府事務局長）「カトリック教会から見たグローバリゼーション」 研究叢書『「越境」世界の諸相——歴史と現在』 序 第Ⅰ部 「越境する商品・情報・好奇心・ジェンダー——女流博物学者メーリアンの	

	生涯とその時代」谷澤 毅 「ローヌ - ライン運河——「越境」から越境へ」内田日出海 第Ⅱ部 「越境するムスリム——リトアニア・タタールの系譜とその世界」川名隆史 「ブラチスラヴァ地名考」長與進 「大改革前のロシアの兵士」松村岳志 「アルゼンチンにおけるヴォルガ・ドイツ人——移住当初のロシア的共同体生活」鈴木健夫 第Ⅲ部 「明治期の地域産業とキリスト教——今治綿織物業の発展とキリスト教徒企業家」辻智佐子 「取引所制度の受容からみた戦前日本・中国の経済社会」四方田雅史 「インカルチュレーションと「近代の超克」——現代日本のカトリシズムをめぐって」寺尾寿芳
来年度の活動計画	無し
終了の場合	研究成果刊行の時期： 2013年3月 研究成果の公開方法： 研究叢書